

文芸特集

たくさん作品の中から選ばれた秀作を紹介します。限られた字数の中に織り込まれた、さまざまな思いや季節の情緒を味わってください。

一席

望みたる職へと障がい持つ子らを世話する娘少し痩せたり

安行原 山田 英一

評 娘さんの志の高さがつかえます。苦勞も多いことでしょう。「少し痩せたり」に心配をしている父親の心が伝わってきます。

太陽をもつたいないほど身に浴びて皇帝ダリア高々と咲く

安行原 高橋 清

救急車止まる数増え一人居の近隣多く心配よぎる

芝下2 中山千枝子

桜花今年はどこへ行かうかな春の帽子を並べて待てり

芝高木2 森田富美子

娘との穏やかな日々は宝物月がかわれば名字がかわる

上青木1 高橋 和江

毎日の短歌づくりに精を出し生きた証を残す喜び

鳩ヶ谷本町4 佐羽みはる

花菜風纏ふ頃合一張羅着て出かけたし誘ひ合せて

芝富士1 小野 隆子

思うまま詠めぬ心を持ち越して寢覚めの床にまた指を折る

戸塚2 春山ふみ子

カラカラと氷をまわす音がするアイステイの季節が来たね

川口2 川久保百子

たんたん何事もなく刻は過ぎ明日を迎えに陽は沈みゆく

安行慈林 鈴木ひろみ

俳句

一席

春の陽を両手広げて受け止めた

南町2 浦部千恵子

評 待ちに待った春の陽光を全身で満喫している様子が描かれている。「受け止めた」という断定が見事である。まさに口語表現が相応しく嬉しさをさらに倍増していると言えぬ。

春うらら山羊一頭が草を食む

西青木4 青柳 映子

シニア等の筋トレ体操花の下

鳩ヶ谷本町2 市川 和夫

若き日の慎太郎読む春愁

南鳩ヶ谷1 岡野 安代

川底の石にも藻にも風光る

八幡木2 向後 弥生

屋根を押す記念樹伐られ冬ざれる

飯原町 小酒井久美子

言問橋花菜供ふる追悼碑

東川口6 小山 哲夫

それぞれに祈りを込めし吊し雛

南鳩ヶ谷2 高橋 節子

眠そうに肩寄せあつて春の山

本町4 田邊 元子

風音に応ふる如くさくら舞ふ

石神 徳丸美也子

つくし摘む山に抱かれし阿弥陀堂

差間 中田 道子

梅の香につつまれしわが初恋よ

安行吉岡 橋本 和子

柔らかなパンの甘みや花疲れ

新堀 浜田 輝子

幟立て開店準備風薫る

芝 原田 真蔵

寒卵平飼い誇る堅い殻

朝日5 堀 晋

一席

ケイタイもスマホも無縁握るペン

飯塚2 川瀬伊津子

評 節約を理念として強いられた戦時の少女期。身に残る信条は今も健在。老いたるなりに励ます自分をペン先で小突く息抜きの様が連想される。

堪え抜いた旅百年の語り草

鳩ヶ谷本町3 加藤 レイ

丸腰で胸襟開く母ごころ

上青木西4 星野 良一

砂遊び夢中な子らの思考力

東川口2 星野 直康

二世帯に花を咲かせる孫娘

安行領根岸 宮崎 忠久

川柳

新井 愁思 選